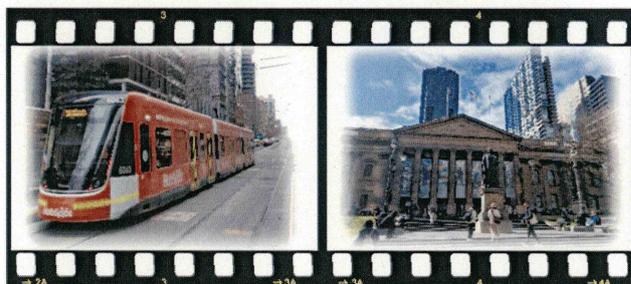


オーストラリア 教育体験視察と交流の旅



報 告 書
第24回



2025. 8. 16~8. 22
静岡県教職員組合

目 次

目的・内容・とりくみと成果	1
日 程	2
団員名簿	3
参加報告	4

京 佳代子	静岡	久能小	経験から得た学び	4
富田 笑生	浜松	三ヶ日西小	変わりゆく社会に合わせた教育の基盤作り ～ウェルビーイング・労働環境の視点から～	5
松村 夏実	田方	長岡中	Keep Learning	6
山本 侑里子	沼津	片浜小	オーストラリア視察から学んだこと	7
片田 栄二郎	榛原	相良中	オーストラリアの教育体験視察を通して	8
山本 琴音	磐周	袋井中	オーストラリア視察で実際に見て聞いて 気づいたこと	9

アンケート集約	10
静教組新聞 クリエイティブ発信・静岡 記事	14

第 24 回 オーストラリア教育体験視察と交流の旅

実施日

2025 年 8 月 16 日～8 月 22 日

訪問地

オーストラリア（メルボルン）



目的

- ・ オーストラリアの学校訪問やオーストラリア教育組合（AEU）教職員との教育交流を通して、子どもや教職員の実態を知ったり、教育システムや教育内容等を学んだりして見聞を広める。
- ・ 実際に見聞き体験したことを教育実践に生かしたり、単組・支部や学校現場、地域教育懇談会等で広く還流したりする。

内容

- 教育視察 — 学校訪問、授業参観
- 意見交換 — 教育交流会（両国共通の教育課題）
- 国際交流 — 夕食交流会

とりくみと成果

「第 24 オーストラリア教育体験視察と交流の旅」は、オーストラリア教育組合（AEU）ビクトリア支部の全面的な協力を得て実施しました。1996 年から始まった教育体験視察と交流の旅では、これまでに貴重な体験を得ることのできた参加者は延べ 627 人に達します。オーストラリアにおいても静教組との交流が高く評価されており、今回もビクトリア州教育省や在メルボルン日本国総領事館の関係者とも交流を深めることができました。2025 年度は、単組・エリアからの参加者 6 人、県本部 2 人、県議 1 人、添乗員 1 人を含む 10 人で団を構成し、学校訪問、教育交流会等を通して、現地の子どもや教職員の実態、教育内容や教育システム等を学びました。

学校訪問では、North Melbourne Primary School（小学校）、Buckley Park College（中学校）を訪問し、各校のウェルビーイングを重視した学校運営や独自のとりくみについて学びました。各学校の協力のもと、教育活動を実際に見聞きし体験することで、子どもたちの様子や学校教育の実態を知ることができました。AEU ビクトリア支部教職員との教育交流会では、「それぞれの国が抱える教育課題」をテーマに意見交換をしました。特別な支援を要する子どもたちや多国籍・多文化・多言語の子どもたちに対する指導や支援のあり方、教育条件整備や教職員の働き方などについて活発な話し合いが行われました。参加者からは、「日本の教員が抱える問題と、オーストラリアの教員が抱える問題が共通していて、お互いに最適な解決策を探ることができた」「勤めている学校、地域、県、国を越えて、遠く離れた国にも同じような問題意識をもち、立ち向かっている人たちがいると思うと、『がんばろう』と思えた」等の感想が出されました。AEU ビクトリア支部の協力による学校訪問、教育交流会等を含めた 7 日間の「教育体験視察と交流の旅」は、大きな成果を収め、予定した全日程を無事終了することができました。

日 程

	月 日	地 名	時刻	日 程
1	8/16 (土)	成田空港 第2ターミナル	18:00 20:25	成田空港3階Eカウンター集合 出国手続き終了後、カンタス航空にて空路オーストラリアへ 《機中泊》
2	8/17 (日)	メルボルン	7:45 9:30 15:30	メルボルン国際空港(タラマリン空港で入国審査) メルボルン市内観光、昼食 ホテルチェックイン レストランにて夕食会 《ホテル泊》
3	8/18 (月)	メルボルン	終日	学校訪問・研修 小学校訪問 9:00~12:30 中学校訪問 13:00~15:30 《ホテル泊》
4	8/19 (火)	メルボルン	9:30 11:00 14:30 18:00	AEUビクトリア支部へ 教育交流会/全体会 教育交流会/分散会 ビクトリア州トレードホール評議会 AEUと夕食交流会 《ホテル泊》
5	8/20 (水)	メルボルン	終日	自由研修 《ホテル泊》
6	8/21 (木)	メルボルン シドニー	8:00 10:00 11:25 13:00 20:30	ホテルロビーに集合、メルボルン国際空港(タラマリン空港)へ カンタス航空にて空路シドニーへ シドニー国際空港(キングスフォードスミス空港)到着 シドニー市内観光・昼食 シドニー国際空港(キングスフォードスミス空港)出発 出国手続き終了後、カンタス航空にて空路羽田へ 《機中泊》
7	8/22 (金)	羽田空港 第3ターミナル	5:25	到着、税関通過後、解散

団員名簿

第24回オーストラリア教育体験視察と交流の旅

NO	単組・支部	役職	名前	所属	備考
1	本部	団長	赤池 浩章	静教組本部	
2	本部	事務局長	山田 佳奈	静教組本部	
3	静岡	団員	京 佳代子	久能小学校	
4	浜松	団員	富田 笑生	三ヶ日西小学校	
5	田方	団員	松村 夏実	長岡中学校	
6	沼津	団員	山本 侑里子	片浜小学校	
7	榛原	団員	片田 栄二郎	相良中学校	
8	磐周	団員	山本 琴音	袋井中学校	
9		団員	佐野 愛子	静岡県議会議員	
10		添乗員	有ヶ谷 光春	遠州鉄道(株)	

経験から得た学び

静岡教組 静岡市立久能小学校 京 佳代子

1 はじめに

海外旅行をした経験から、「他国を知ることは日本を良さや課題がはっきりし、よりよく生活する方法が見えてくる」と感じていました。コロナ禍を経た今、さらに世界情勢が複雑化し、明るい未来が見えません。子どもをとりまく問題を他国（オーストラリア）ではどのように捉え、対応しているのかを実際に目で見て理解したいと思いました。世界がより身近になった今、「誰もが一番生きやすい方法を見つけ、輝く」ための支援をしたいと考え、教育体験視察を希望しました。

2 学校訪問

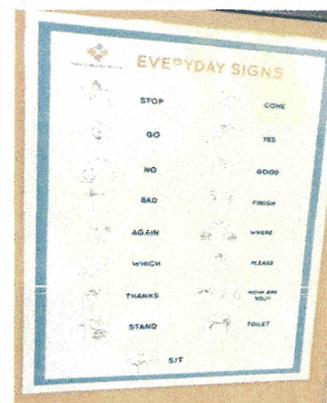
訪問した NORTH MELBOURNE PRIMARY SCHOOL は、150 年前に建てられた趣のある校舎と、2 年前に建てられた最先端の校舎を備えた小学校でした。新しい校舎には、ファーストネイションズの文化や言葉をデザインしたイラストが施され、先住民を敬う精神が感じとれました。



【校舎の様子】

短時間でしたが、3年生の子どもたちとコミュニケーションをとることができました。折り紙やマジックスクリーンなどのペーパークラフトで日本の文化を伝えると、子どもたちは驚いたり、大笑いしたりと楽しんでいる様子でした。とてもよい時間になりました。

この訪問の中で興味深かったことは、オーストラリア手話（オーズラン）を「言語」として全児童が学んでいたことです。専門の先生が指導するオーズランは、正に多様化社会に求められているカリキュラムでした。障がいの有無に関わらず、誰とでもコミュニケーション能力をつける学習は、日本でも必要であると感じました。



【オーストラリア手話（オーズラン）】

3 AEU との交流会



真っ先に感じたのは、AEU の先生方の明るさと困難克服への情熱です。不登校児の増加、教員不足、公立学校の存続の危機。20 年来変わらない日本とオーストラリア共通の課題を抱える教員の働き方の現状を踏まえ、どうしたら教員自身がウェルビーイングの向上をめざすことのできる働き方ができるかを考えました。それは、よい教育につながり、子どもたちのウェルビーイングも高まるのではないかと思います。同じ教員として、よりよい教育の実現へむけて、語り合えたことは本当によりよい経験になりました。

4 おわりに

国は違っても、子どもの本質も教員の子どもに対する思いも同じであることを、実際目で見て、心で感じました。この教育体験視察で出会えた方々との交流で得たたくさんの学びは、これからめざす自分のよりよい生き方に大きな影響を受けました。お力添えをいただいた皆様に深く感謝申し上げます。

変わりゆく社会に合わせた教育の基盤作り

～ウェルビーイング・労働環境の視点から～

浜松教組 浜松市立三ヶ日西小学校 富田 笑生

1 はじめに

昨年度、オーストラリアのシドニーを訪れた際に、文化も言語も違う民族が共生している社会であることに驚きました。昨今の日本でも外国にルーツをもつ児童・生徒が増えています。多文化主義であるオーストラリアでは、お互いの文化や言語の違いを受け入れながら、どのような教育活動を行っているのか、実際に訪問して学びたいと思い、参加を希望しました。

2 学校訪問

North Melbourne primary school という公立小学校では、「すべての生徒が学業的、社会的、情緒的に成長できる、前向きで安全な学習環境を確立すること」を目的とし、ポジティブな行動を価値付けていくという教育方針を掲げています。そして、そのための土台作りの一つとして、生徒のウェルビーイング（心身の健康と幸福）を向上させるためのとりくみを行っていました。校内にはウェルビーイング専門の職員がおり、各学級の教室には心理トレーニングやカウンセリングを行う個室がありました。特別支援を必要とする児童もそこで心理トレーニングを受けると聞きました。また、オースラン（Auslan）というオーストラリアの手話が必修教科であり、障がいの有無に関わらず教員や児童間で日常的に使われているということや、入学前に英語を母語としない子どもを対象に EAL (English as an Additional Language) という英語学習支援プログラムが実施されていることも児童の心の健康と学習の土台づくりにつながっているのだと思いました。



Buckley park college という中高一貫校は、生徒の生活・学習状況を把握するためのプログラムである、Student development や教員の能力向上を目的とした研修である、Staff development があることに加え、School council で教職員・生徒・地域や保護者の三者がより良い学校教育のあり方について頻繁に話し合いを積み重ねているところが印象的でした。ここでも、ウェルビーイングルームに3人のカウンセラーが常駐し、学校生活や学習などについて相談できる体制が作られていました。

3 教育交流会

AEU との教育交流会のグループ協議では、時間外労働や教員不足について、両国に共通の課題があることがわかりました。ヴィクトリア州の常勤の教員は、フルタイムで週 38 時間労働が基本ですが、週に 10 時間以上の時間外労働をしている人が多いことや、非常勤で働く教員志望の学生に高額な賃金を払っていることを聞きました。子どもたちへのより良い教育活動の実現のために、個人の工夫や組合の運動によって労働環境の改善をすることの必要性を改めて認識しました。

4 おわりに

今回の教育体験視察を通して、日本とオーストラリアという2つの視点から、教育活動や労働について考えることができました。これからの未来の担い手を育てる教育こそがよりよい社会を作ることにつながることを、日々変化する社会に合わせて教育の形を変えていくことの大切さを学びました。今後も幅広い視点から、教育について考え、学んだことを目の前の子どもたちへの教育に還元していきたいと思えます。

Keep Learning

田方支部 伊豆の国市立長岡中学校 松村 夏実

1 メルボルンと私

メルボルンは学生時代に留学していた、いわば私の another sky です。私立の一貫学校に日本語アシスタントとして勤めており、当時も日本とオーストラリアの教育プログラムや先生方の勤務体系の違いに興味をもっていました。今年度から教育体験視察と交流の旅が再開され、現地の公立学校への訪問や国際交流ができるという内容に魅力を感じ、思いきって応募しました。今回、年月による教育現場の変化や公立学校と私立学校の違いも知ることができ、学びの多い研修となりました。

2 学校訪問

North Melbourne Primary School に入ると、学校教育目標がわかりやすく掲示され、その中から「今週の目標」がピックアップされていました。その週の目標は「being an upstander」。いじめ等に対して、傍観者ではなく立ち向かう人になろう、というのをはっきりと掲げていることに大きな意味を感じました。新校舎はカラフルなオープンクラスルームで、グループごとの机や子どもが床に座って話を聞くスペースもありました。ここはやはり日本と違うなと思いましたが、騒音や教室移動時の問題、特別支援の観点から、現在オープンクラスルームは減ってきているそうです。机も個々に与え、黒板に対して前向きにする日本のような形にしたいとおっしゃっていたのが印象的でした。オーストラリアでも個別最適な学びをめざしているようです。また、特別支援学級がなく、すべての子どもが共に学んでいくインクルーシブ教育がすすんでいます。普通教室にはクールダウンスペースが確保され、ユニセックトイレでした。また、言語・文化的にも様々な背景をもった子どもも多いため、EAL(English as an Additional Language)学習を行っていたり、必修である外国語教育のひとつとして手話を教えていたりしました。日本の中学・高校にあたる生徒が通う Buckley Park College でも、インクルーシブというキーワードが挙がり、カリキュラムや制服の選択性がすすんでいます。また、ここで驚いたのは、授業時間が教員の勤務ベースで定められていることです。教員が授業をもてる時間が1週間に18.5時間と定められていることから、1クラス79分授業という設定になっています。Teachers Collaboration や Teachers Meeting も意識されており、先生方の研修や共通理解を深める時間が確保されていました。Student Leader の生徒たちは、コミュニケーションを取り合っ



3 教育交流会

教員の過重労働や不登校、問題を抱えた子どもへの対応など、オーストラリアと日本の教育課題について協議しました。2回のグループ協議の中で「不登校」は共通の話題として挙がり、子どものメンタルヘルスの悪化、社交性や学ぶ意欲の低下、見落とされてきた学習障害、家庭の問題など、日本と共通した原因が挙がりました。また、日本では別室対応の子どもを支援員がみることがありますが、オーストラリアでは支援員のみで子どもに対応することができません。それはトラブル回避および正規の教員を守るためということですが、オーストラリアも教員不足が大きな課題だそうです。協議や交流会を通して多くの共通点を見つけ、互いの事例から学ぶことができたことは大きな財産であるとともに、海を越えた場所に教員として同じように頑張っている仲間がいることに力をもらいました。



4 おわりに

小学校に先住民(Aboriginal People/First Nations)のアートがたくさんあったり、教育交流会の挨拶の冒頭に先住民の方への敬意を示していたりするなど、以前より先住民へのリスペクトを強く感じました。学校教育の中でも「自分たち(移民してきた人たち)が先住民にしてきた歴史や彼ら自身について正しく理解し、子どもに教えていくことが大切」という強い思いが教員にあるとともに、歴史認識について様々な見解があることから、「私たちも学び続けていかないとね」と話してくださったことが心に残っています。学び続けることは、今、そして未来を生きる子どもと日々接する私たちにとっても重要で、大切な責任でもあると思います。今回のオーストラリアでの見聞、そして出会いのすべてが大きな学びになりました。これからも学び続ける教員でありたいと思います。



オーストラリア視察から学んだこと

沼津支部 沼津市立片浜小学校 山本 侑里子

1 はじめに

私は、海外と日本の教育の違いや抱えている教育課題について興味がありました。本視察に参加することで、その学びを自分たちの地域の教育に生かしていきたいと考えました。オーストラリアでは州ごとに教育制度が異なり、準備学年（6歳）、小学校（7歳～12歳）、中学校（13歳～16歳）、高校（17歳～18歳）で小中学校段階が義務教育となります。様々な地域にルーツのある移民が多い国であり、200か国100言語が存在する地域です。

2 学校訪問

学校訪問では、North Melbourne Primary School という公立小学校に訪問させていただきました。言語の壁や、発達障がいによる集団活動の困難さ、耳が聞こえにくいなどの様々な学習への困難さを抱える児童が、誰でも学習にとりくめるようにするための設備や支援の工夫が至る所にされていました。



言語の壁については、英語指導教室があり週2回専門の教員が取り出し授業をしていました。また、入学段階で英語が全く話せない児童に関しては、小学校の近くに言語指導教室があり10週間のプログラムに参加して基礎的な言語力を身につける制度もありました。

発達障がいについては、学校に6教室につき4部屋個別学習ルームが設けられています。そこでは児童が少人数で落ち着いて学習をすることができます。特別支援学級はなく同じ学級で学習をすすめます。個別学習ルームは教室の担任から様子が見えるようにガラス張りになっており、教員・言語療法士・心理士・福祉士がチームとなって支援を行います。

耳の聞こえにくい児童については、通訳が1人全授業で支援を行っており、どの授業でも他の児童と一緒に参加しています。学校の廊下には拡声器がついており、専用のマイクを首に提げて教員が話すと拡声器を通じて聞くことができ、聴覚に障がいがあっても参加しやすい設備の工夫がありました。

3 教育交流会

教育交流会では、AEUの方と教育課題について話すことができました。オーストラリアと日本では、



共通して直面している課題がいくつかあり、職員不足・給与・業務量などが課題としてあげられました。特に新しく教員になる人が少なく教員不足が深刻だと話していました。その要因として給料が上がらないことや膨大な業務量が改善しないことがあげられていました。日本も同じように教員不足の課題を抱えています。教職は未来を担う子どもたちを育成する大切な仕事です。だからこそ、子どもと関わる職員の給与が正に支払われたり、

余裕をもって子どもたちに関わることができる業務量にしたりすることは非常に重要だと考えます。私たちにもできることから動いていく必要があると感じました。

4 おわりに

今回のオーストラリア視察では実際に学校を視察する貴重な機会をいただきありがとうございました。視察に際して、お忙しい中静教組・支部の方々、オーストラリアの小中学校の先生方や組合の方々など様々な方のご尽力があり、このような経験ができました。今回の学びを多くの子どもたちに還元できるようにこれからも日々の教育活動に邁進したいと思います。

オーストラリアの教育体験視察を通して

榛原支部 牧之原市立相良中学校 片田 栄二郎

1 はじめに

今回、オーストラリアの教育体験視察という貴重な機会があることを知り、英語科教員として自身の授業力向上や、教育に対する視野を広げるために参加させていただきました。学校への訪問や AEU（オーストラリア教育組合）の方々との交流を通して、オーストラリアの教育現場における、日本にいたるだけでは知ることのできなかつた様々な実態について学ぶことができました。

2 学校訪問

学校訪問において、North Melbourne Primary School を見学させていただきました。多文化共生の視点で見ると、原住民であるアボリジニをリスペクトしたデザインが校舎のいたるところに施されていたり、様々な国籍の子どもたちが在籍していたりと、多文化に対する受け入れや指導がすすんでいることがわかりました。この学校では週に2回、英語の取り出し授業を行っており、英語力がほとんどない児童生徒の場合は、10週間、別の学校にて英語を学習し、学校生活を円滑に送れるように環境を整えているそうです。



教室はオープンスペースが主体となっており、広々とした空間で子どもたちが元気に活動していました。掲示物には、人種的な面だけでなく、自分自身を認めることの大切さなど、学習面以外にも大切にしたい考え方について飾られていました。

3 教育交流会

AEU の方々と、お互いの教育現場における現状の課題を中心に話し合いが行われました。グループトークでは主に不登校生徒について、その原因やどのように対応しているか、について話し合いました。



オーストラリアでの近年の不登校の理由については、新型コロナウイルスによるロックダウンによる人とのコミュニケーションの機会の損失や、小学校の段階において学習障害が見落とされ、中学校の段階において落ちこぼれとなってしまうなどの理由が挙げられました。日本においても同じようなことが起きていることを伝え、抱えている課題の多くが共通しており、簡単には答えの出せない課題でありながらも、積極的な姿勢で、どちらの立場からも多くの意見が出されました。

また、興味深い質問に「社会の授業などで歴史を学ぶ際に衝突は起きるか、保護者からクレームはこないか」というものがありました。驚きとともに、日本とは異なり、多民族国家であるオーストラリアだからこそその悩みもあるということを知ることができました。

4 おわりに

今回の教育体験視察を通して、日本と大きく異なる多文化社会に直接触れられたことは、とても大きな財産となりました。さらに、教育における課題に目を向け、話し合いを行ったことで、今まで以上によく考え、生徒と向き合っていきたいと考えるようになりました。このような貴重な時間を、静教組の皆様、また AEU の皆様とともに過ごすことができ、大変ありがたく存じます。心より感謝申し上げます。

オーストラリア視察で実際に見て聞いて気づいたこと

磐周支部 袋井市立袋井中学校 山本 琴音

1 はじめに

私が今回の体験に参加した理由は、各国の教育的課題や労働環境改善の工夫を実際に見て知りたいと考えたからです。私は幼い頃から国際交流に興味があり、海外旅行でも多くの人とコミュニケーションを取ることを楽しんでいます。しかし、海外旅行の中で同じ職業の人から直接話を聞いたり、職場を見学したりすることは容易ではありません。そのため現地の学校や組合員の方々から直接お話を伺いたいと思い、私は今回の体験に参加しました。

2 学校訪問

メルボルンの小学校と中高一貫校を訪問し、注目したのは、言語教育についてです。オーストラリアはマルチカルチャーの国のため、見学した North Melbourne Primary School (小学校) では、生徒の母語が 40 言語もあることを知りました。入学時に英語が話せない生徒は、EAL(English as Another Language)に通い、通常授業に加えて週 2 時間、英語を学習します。



私の勤める袋井中学校にも、外国にルーツをもつ生徒が、各クラスに 2~3 人、全校で約 50 人程度在籍しています。そのほとんどが、日本語でうまくコミュニケーションが取れません。日本語指導はありますが、学校の学習内容を理解したり、人間関係づくりをしたりするのが難しい現状があります。私はそのような現状を少しでも改善したいです。そこで、今回見学したメルボルンの教育を参考に、生徒が多様性を受け入れられるような環境を創っていきたいと思いました。教科指導の中でも、より多くの海外の文化について学ぶ時間を作り、身近にいる人の異文化に興味をもつ機会を増やしたいと思います。

3 教育交流会

オーストラリアの小中学校の先生や組合職員の方々と交流をしました。給与の増額や、教員の増員を要求していることなど日本との共通点が多かったです。教員が、自分たちの職業に誇りをもち、児童生徒、保護者のために時間を費やしていくことが大切だと感じることができました。



4 おわりに

今回の体験で、興味をもったことは、実際に行動に移すことが大切だと実感しました。この視察に参加することはもちろんですが、現地でも、小中学校の先生方に気になることをたくさん質問することを意識して過ごしました。協議会後の夕食でも、会話の中で自ら話題を作ることを心がけ、多くの学びがありました。教育体験視察でしかできない貴重な体験で、人生の財産となりました。本当に感謝しております。

第24回 オーストラリア教育体験視察と交流の旅アンケート

1 学校視察

(1) 学校視察は、これからの教育や学校のあり方を考える上で参考になりましたか。

- | | |
|----------------|-----------|
| ア たいへん参考になった | 6人 (100%) |
| イ 参考になった | 0人 (0%) |
| ウ あまり参考にならなかった | 0人 (0%) |

(2) それはどのような点ですか、お書きください。

<小学校：North Melbourne primary school>

- ・ 出来て2年の校舎もさることながら、新しい環境と常に子どもたちに何が必要かを考えてとりくんでいる先生方の姿が見えました。学校に行きたい！と思えるようなデザイン空間、色彩の学校でした。日本では、実際には不可能ですが、その精神はまねしたいと思いました。
- ・ 学力向上だけでなく、多文化や障がいを理解し、教育的ニーズに応じていくためにウェルビーイングを重要視している点です。例えば通常学級の教室の中には、児童の心理的なサポートをするための小さな部屋が常設されていたり、英語が身に付いていない児童が必要な英語力を身に付けられるようにするための特別な教室が用意されていたりしました。また、全校児童がオースラン（オーストラリアの手話）を必修しているというのも印象的でした。先住民（アボリジナルピープル）を尊重する姿勢も、校舎前の展示の随所に感じられました。様々な教育的ニーズに対応する環境づくりを考えるうえで、大変参考になりました。
- ・ 多国籍で多様な文化や背景をもった子どもたちが多いオーストラリアでのインクルーシブ教育についての学びが大きかった。Unisexトイレ（大人も子どもも！）には驚きました。先住民や彼らとの歴史についての教育に、どれだけ力を入れているのかも知ることができました。
- ・ 誰もが学習に参加できるようにするための支援や設備においてのユニバーサルデザインです。耳の不自由な児童や、特別な支援を必要とする児童が学習しやすくなる工夫がありました。学習にハンディーキャップを抱える子どもたちが、学習にとりくみやすくなる教育のあり方を考え続けたいと思いました。
- ・ 新しい教育施設の中でも、改善したい問題があること。日本式の良さもあること。特に、グループデスクで学ぶ教室は、個人デスクに戻す学校もあること。さらに、オープンスペースの空間は音響の問題があり、壁で教室を作っていること。

校訓が校内にたくさん掲示されており、学校の指導方針がわかりやすいこと。（R ISE）

<中学校：Buckley park college>

- ・ 先生方の情熱をたくさん感じました。目の前の子どもたちがよりよい生き方ができるようにしていく姿が感じとれました。きっといろいろな子どもがいますが、それぞれが将来を見据えて、明るくとりくんでいるように感じました。
- ・ 地域や保護者・教職員・生徒で常によりよい学校や教育を求めて話し合いを積み重ねているという点が印象的でした。各々が週に一度、学校教育のあり方を、データを参照しながら検討する時間や、三者が話し合う場が定期的に設けられていました。自分たちの地域の学校を、自分たちでよりよくしていくとりくみは、私たちがとりくんでいるコミュニティースクールと似ている部分があると思いました。教職員だけで今後の学校教育を考えていくのではなく、地域や保護者、児童・生徒の声を聞きながら学校改革をすすめていくことの大切さを改めて感じました。
- ・ 小、中学校両方行けたことが充実した研修になりました。日本との共通点が意外と多かったことが新鮮でした。生徒さんの意見を直接聞いたことも貴重で、大変ありがたいことでした。
- ・ キャリア教育についてです。中2にあたる学年では生徒自身の興味を深め、翌年は適正テストや教員との面談をし、後に進学コースか、職業訓練コースかを選択していくことになります。自分の特徴を知ったうえで、キャリアを考えていくことは、とても重要だと感じました。
- ・ 「RISE」(Responsible Inclusive Sagacious Ethical)をもとに、校内のいたる場所に掲示がされているため、教員だけでなく、児童・生徒に対しても明確になりたい姿が示されている。榛原地区においても、このように両者がしっかりと目標を把握して生活することができれば、よりよい学校となるのではないかと感じた。また、多民族文化のすすんだオーストラリアに比べ、外国人生徒への理解、日本語指導の時間の確保など、まだ足りていない部分もあり、多様な文化を受け入れる準備が必要だと改めて感じた。
- ・ 生徒が社会性を身に付けるうえで、大切なのは学校であること。SNSの法改正について、政府や家族、先生方の考え方と比較しながら議論したり、校則を見直したりする、意見を言える期間がため、社会性が身に付くのに最適だと思う。
保護者の教育的・健康的・経済的な責任。(健康診断やPC準備等)

2 教育交流会（全体会・分散会）

（1）教育交流会での協議は、これからの教育や学校のあり方を考える上で参考になりましたか。

- | | |
|----------------|----------|
| ア たいへん参考になった | 6人（100%） |
| イ 参考になった | 0人（0%） |
| ウ あまり参考にならなかった | 0人（0%） |

（2）それはどのような点ですか、お書きください。

- ・ 全体会でも、分散会でも職員の人手不足や過重労働、長時間労働、予算不足など共通の課題があることがわかりました。しかし、それらの課題に特效薬はなく、組合活動などで声を上げ続けていくことが大切だと思いました。また、ジャスティン委員長の話にあった「一人一人の生徒が、学校が輝けるように学力・ウェルビーイングの立場から、よりよい教育活動をめざすことを続けていきたい」という言葉が印象に残りました。教育課題に向き合っていくことも大切ですが、子どもたちのためにという目的をぶらさないように、個人や組合でできる最適解を見つけていきたいと思いました。
- ・ オーストラリアも、日本も公立学校の状況や直面している課題において共通点が多く、互いの意見交換ができたことが貴重な経験になりました。勤めている学校、地域、県、国を越えて、遠く離れた国にも同じような問題意識をもち、立ち向かったり、チャレンジしたりしている人たちがいると思うと、「がんばろう」と思えます。
- ・ オーストラリアと日本は教員不足や給与、業務量など様々な共通の課題があることがわかりました。教職は、未来の社会を支える人材を育成する崇高な仕事です。だからこそ、子どもたちを支える教員が正当な給与を獲得できること、業務量の改善を行いプライベートの時間も確保できるようになることが、ひいては子どもたちに余裕をもって関わることにもつながり、教員不足が軽減していくのではないかと感じました。
- ・ オーストラリアと日本のどちらにおいても、教員の待遇や生徒に関わる悩みなど共通していることが多く、特に不登校生徒や、授業や学校生活において態度の良くない生徒について話をした。オーストラリアの方々からは、学校教育の必要性を感じていない、小学校時点で学習障がいが見落とされている、また、カバーしきれずに落ちこぼれになってしまうなどの理由が挙げられた。日本においても同じ課題があると考え、対応の例として、そのような生徒に対しては愛情のある言葉かけ、家庭への連絡、地域・警察との連携などを行っている」と回答した。教員、生徒どちらもが、これからより充実した学校生活を送るために、多くの話し合いができた。
- ・ 日本の教員が抱える問題と、オーストラリアの教員が抱える問題が共通していて、お互いに最適な解決策を探しているということ。

組合ならではの話題で協議できたこと。特に休みの取り方、給料。

3 その他

(1) 2026年9月下旬にAEUビクトリア支部のメンバーが来静の際、都合がつけばホストを受けていただけますか。

ア ぜひ受けたい	1人 (16.7%)
イ 協力してもよい	0人 (0%)
ウ 難しい	3人 (50.0%)
エ その他	2人 (33.3%)

(2) 今後、交流の旅をよりよいものにするために、アイデアやご意見がありましたらご記入ください。

- ・ 20年間交流の歴史のあるこの事業を、本当に素晴らしいと思いました。日本と同じ課題をメルボルンでも抱えていて、たくさんの先生方が熱い情熱と誇りをもってとりくんでいる!!ということに感動、そして誰かがやってくれるだろうではなく、自分、自らができることに行動を起こす!!という…本当に刺激を受けました。たくさんの学びをみんなに伝えていきます。
- ・ 大変充実したプログラムで、新たな発見や学びにあふれた一週間でした。移動も、宿泊先も快適で、安心して滞在することができました。これからの教育活動に還元していきたいと思います。
- ・ 教育交流会でのグループ協議は、話すトピックやその一つ一つのボリュームが多かったので、時間があっという間に過ぎてしまいました。あの時間がもっと多かったり、STUとAEUメンバーの入れ替えだけでなく、それぞれの団体の中でもメンバーを替えたりしてもおもしろいと思いました。(ex. STUは小学校と中学校でしたが、それをMixする。)
- ・ 申し込みの段階で、どんな日程なのか交流の内容がもっとわかると、準備もよりできるかなと思いました。
- ・ 貴重な機会をいただきありがとうございます。皆様のおかげで、たくさんの学びを得ることができました。ご多忙の中と思いますが、視察をさせていただいた学校の先生と現場の課題や、効果を感じている実践について話す時間がより多くほしいと感じました。
- ・ 日々お忙しい中で、今回の教育体験視察に向けての準備、実施などありがとうございました。非常に充実した時間となりました。これからの学校生活において、生徒指導、授業力の向上へとつなげていきたいと思います。
- ・ 今回、とてもありがたかったのはホテルの場所です。移動時間がすべて短く、協議の時間がたくさんあったことと、自由時間も有効活用できました。本当に感謝しております。



静岡教組新聞 クリエイティブ 発信・静岡

発行人	静岡県教職員組合 〒420-0856 静岡市葵区駿府町1-12 教育会館内 TEL 054-255-0156 FAX 054-255-3910
代表者	赤池 浩章
編集人	山田 浩
定価	1部10円(送料別) ※組合員の購読料は組合費に含む。

第24回オーストラリア教育体験視察と交流の旅 2025.8.16~8.22

オーストラリア教育体験視察と交流の旅が行われ、赤池浩章中央執行委員長を団長に、単組・エリアから参加の組合員6人、佐野愛子県議とともに、メルボルンを訪れました。



本事業は、学校訪問・教育交流を通して、子どもや教職員の実態を見聞きたり、教育システムや教育内容等を学んだりしながら視野を広げ、教職員としての力量を高めることを目的として実施されています。オーストラリア教育組合(AEU)ビクトリア支部から温かい歓迎を受け、充実した研修を行うことができました。

〈学校訪問〉 小学校 North Melbourne Primary School 中学校 Buckley Park College

日本の小学校にあたるプライマリースクールや中学・高校にあたるセカンダリースクールを訪れ、授業や学校の施設を見学したり、子どもたちとの交流を行ったりしました。

現地では、子どもたちのウェルビーイングを大切にされた学校教育が行われていました。多様性を尊重し、民族や文化など、様々な違いを受け止め、共に学ぶことができる環境が整えられていました。また、地域や保護者、児童生徒と対話を重ねながら、よりよい学校づくりを行っていることがわかりました。



～感想より～

教職員だけで今後の学校教育を考えていくのではなく、地域や保護者、児童・生徒の声を聞きながら学校改革をすすめていくことの大切さを改めて感じました。

〈教育交流会〉

全体会では、在メルボルン日本国領事から温かい歓迎のご挨拶をいただきました。また、AEUビクトリア支部ジャスティン支部長から、ビクトリア州の教育をとりまく現状や課題についてお話いただきました。



分散会では、「それぞれの国が抱える教育課題について」をテーマに、教職員の労働環境、児童・生徒の問題について意見交換をしました。教職員不足や長時間労働など共通課題があり、学校として、また組合として、どのようにとりくんでいるか情報を共有し、時間いっぱいまで熱心な協議が続きました。

～感想より～

オーストラリアも日本も公立学校の状況や直面している課題において共通点が多く、互いの意見交換ができたことが、貴重な経験になりました。

〈教育省訪問〉

赤池中央執行委員長、佐野県議が教育省を訪れ、教育事務次官らとともに、日本やオーストラリアの教育情勢について協議を行いました。



教育省として、教職員のウェルビーイングのために業務量、労働時間管理等、現場が抱える問題に対して様々な措置を講じていました。また、国際社会で活躍する人材を育成するためのビクトリア州のとりくみについてご説明いただきました。

～感想より～

20年間の歴史のあるこの事業は本当に素晴らしいと思います。たくさんの先生方が、情熱と誇りをもってとりくんでいるということに感動を、そして自らができることに行動を起こす！という姿勢に刺激を受けました。たくさんの学びをみなさんに伝えていきます。